

2016年6月期 決算説明会資料

リファインバース株式会社
(東証マザーズ：6531)



2016年8月

1. 2016年6月期決算概要

Page:2-7

2. 会社概要

Page:8-11

3. 再生樹脂製造販売事業

Page:12-18

4. 産業廃棄物処理事業

Page:19-21

5. 今後の成長戦略

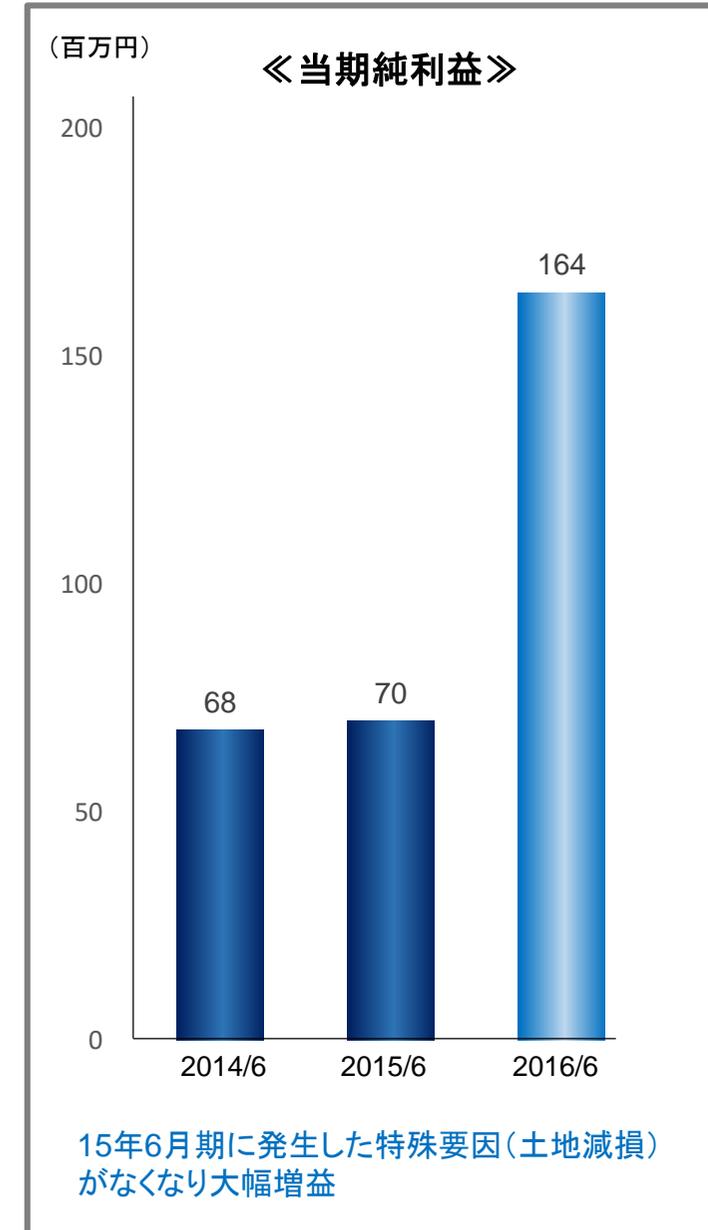
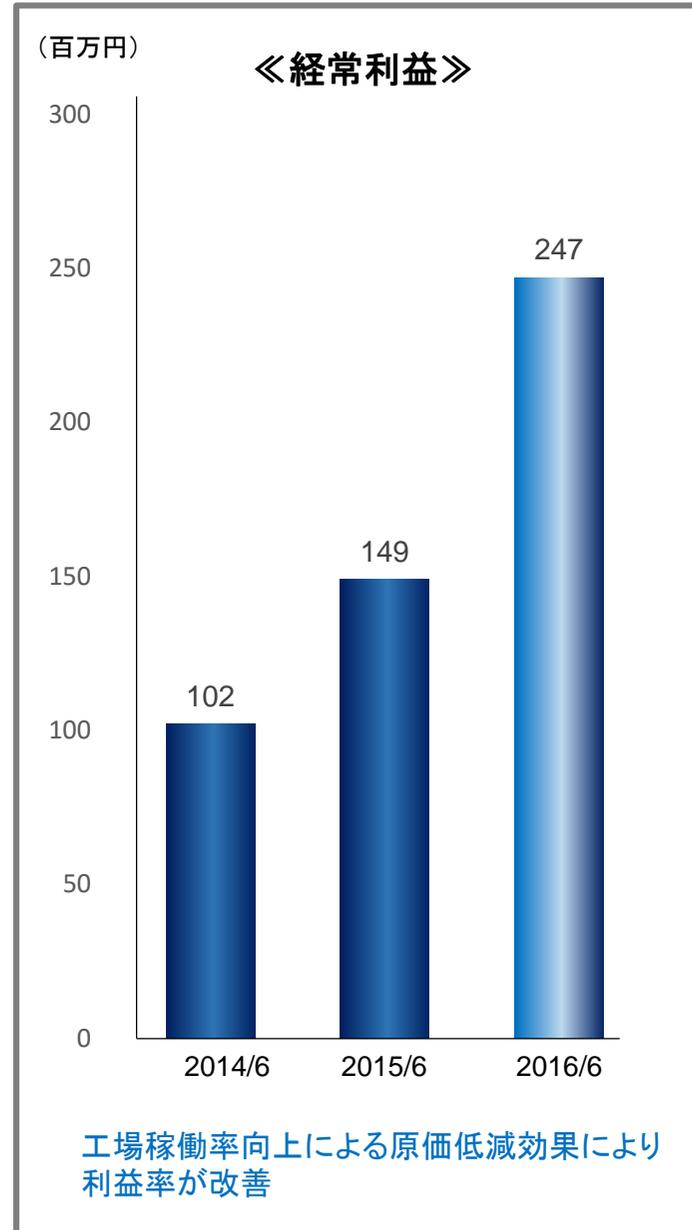
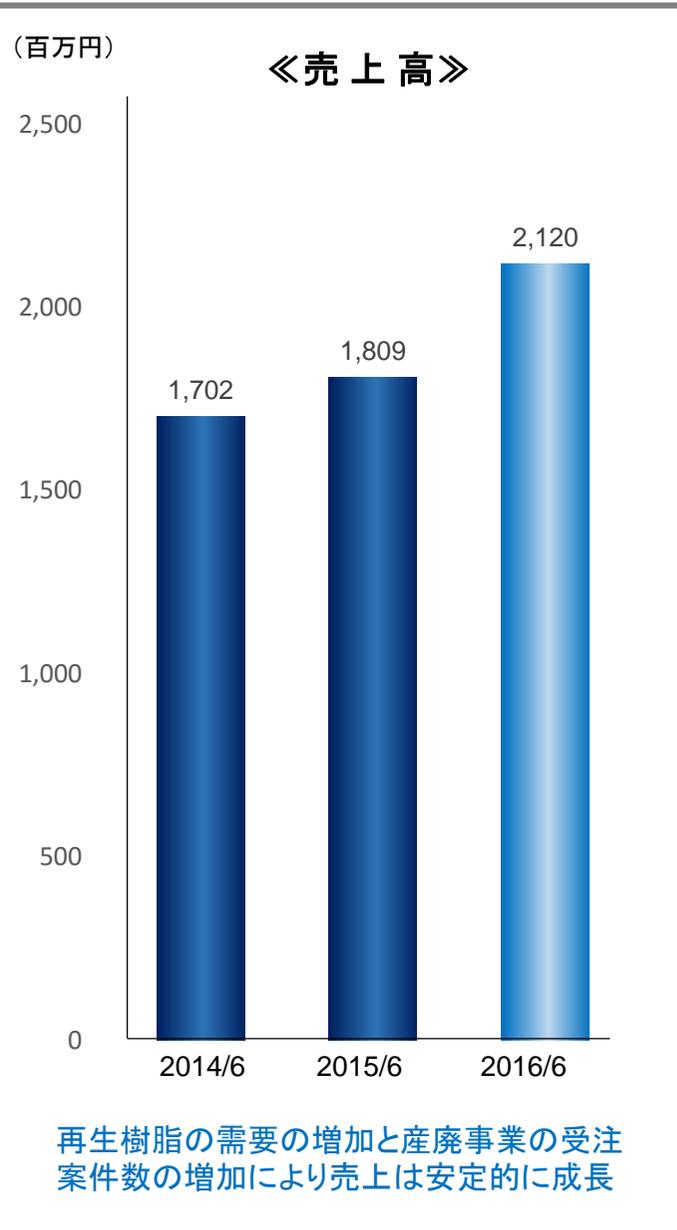
Page:22-26

再生樹脂事業・産廃処理事業の両事業の売上が順調に成長し増収増益となり**過去最高益**を達成

| (単位:百万円) | 2015年6月期 | | 2016年6月期 | | | |
|----------|----------|--------|----------|--------|---------------|-----------------------------------------------------------|
| | | 構成比 | | 構成比 | 前期比 | |
| 売上高 | 1,809 | 100.0% | 2,120 | 100.0% | 117.2% | ✓ 再生樹脂の需要増及び産廃処理受託件数増により売上増加 |
| 売上総利益 | 525 | 29.0% | 661 | 31.2% | 125.9% | ✓ 再生樹脂工場の稼働率向上による原価低減効果により粗利増 ✓ 産廃事業はリノベ案件中心に受注が増加し粗利増 |
| 販売管理費 | 345 | 19.1% | 394 | 18.6% | 114.2% | ✓ 上場関連費用及び研究開発費の増加 |
| 営業利益 | 179 | 9.9% | 267 | 12.6% | 149.2% | ✓ 増収効果と原価低減により販管費増を吸収し営業利益増加 |
| 経常利益 | 149 | 8.2% | 247 | 11.7% | 165.8% | ✓ 借入金の条件見直し、圧縮等により利払減 |
| 当期純利益 | 70 | 3.9% | 164 | 7.7% | 234.3% | ✓ 前期比では特殊要因(土地減損)の影響により純利益大幅増 |

連結業績推移

業績は順調に成長しており3期連続の増収増益・過去最高益を達成



再生樹脂事業は売上・粗利ともに順調に成長しており研究開発費及び上場関連のコーポレート費用が増加。産廃処理事業は受注増に加えて収益管理体制の強化により利益率が改善し安定的にキャッシュを生む事業として成長。

| (単位:百万円) | 2015年6月期 | | 2016年6月期 | | | |
|---------------|----------|--------|----------|--------|--------|---------------------------------------------------------|
| | 構成比 | | 構成比 | 前期比 | | |
| 再生樹脂事業 | | | | | | |
| 売上高 | 721 | 100.0% | 774 | 100.0% | 107.4% | ✓ 再生樹脂の需要増による増加 |
| 売上総利益 | 238 | 33.0% | 274 | 35.4% | 115.1% | ✓ 生産量増により稼働率が向上し利益率が改善 |
| セグメント利益 | 6 | 0.8% | -1 | -0.1% | -16.7% | ✓ コーポレート費用及び研究開発費の増加によりセグメント利益減 ✓ コーポレート費用は再生樹脂事業に計上 |
| 産廃処理事業 | | | | | | |
| 売上高 | 1,111 | 100.0% | 1,375 | 100.0% | 123.8% | ✓ 商業施設や住宅リノベ案件等の受注増加 |
| 売上総利益 | 286 | 25.7% | 386 | 28.1% | 135.0% | ✓ 収益管理体制の強化により利益率改善 |
| セグメント利益 | 133 | 12.0% | 227 | 16.5% | 170.7% | |

連結貸借対照表

当期純利益の増加により自己資本比率が約10%向上し19.3%となり財務体質が改善
ネット有利子負債は178百万円、ネットD/Eレシオは0.62倍

| | 2015年6月期 | 2016年6月期 | 前年増減額 | |
|----------------|--------------|--------------|------------|--------------------------|
| 流動資産 | 1,090 | 1,120 | 30 | |
| 現金及び預金 | 808 | 739 | -69 | |
| 受取手形及び売掛金 | 237 | 296 | 59 | ✓ 売上増による売掛金増加 |
| たな卸資産 | 13 | 21 | 8 | |
| 固定資産 | 312 | 371 | 59 | |
| 有形固定資産 | 276 | 322 | 46 | ✓ ナイロン再資源化ベンチプラ ントの取得 |
| 投資その他の資産 | 36 | 48 | 12 | |
| 資産合計 | 1,403 | 1,492 | 89 | |
| 流動負債 | 469 | 639 | 170 | |
| 支払手形及び買掛金 | 38 | 37 | -1 | |
| 短期借入金 | 4 | 6 | 2 | |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 239 | 330 | 91 | |
| その他の流動負債 | 186 | 266 | 80 | |
| 固定負債 | 809 | 563 | -246 | ✓ 借入金の圧縮 |
| 長期借入金 | 785 | 517 | -268 | |
| その他の固定負債 | 24 | 46 | 22 | |
| 負債合計 | 1,279 | 1,203 | -76 | |
| 純資産 | 124 | 288 | 164 | ✓ 当期純利益による増加 |
| 負債純資産合計 | 1,403 | 1,492 | 89 | |

営業キャッシュフローは大幅に増加し新規事業向けの設備投資及び借入金の圧縮を実行。

| | 2015年6月期 | 2016年6月期 | |
|-------------------------|------------|-------------|----------------------|
| 税金等調整前当期純利益 | 103 | 245 | |
| 減価償却費 | 45 | 53 | |
| 減損損失 | 41 | 3 | |
| 売上債権の増減額 | -37 | -59 | ✓ 売上増による売掛金の増加 |
| 法人税等の支払額 | -44 | -32 | |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 73 | 192 | |
| 有形固定資産の取得による支出 | -33 | -73 | ✓ ナイロン再資源化ベンチプラントの設置 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 75 | 4 | |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 85 | -71 | |
| 短期借入金の純増減額 | -46 | 2 | |
| 長期借入れによる収入 | 740 | 170 | ✓ 借入金の条件変更による借換及び圧縮 |
| 長期借入金の返済による支出 | -484 | -347 | |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 21 | -190 | |
| 現金及び現金同等物の増減額 | 180 | -70 | |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 685 | 615 | |

17年6月期は既存事業のオーガニックグロースを前提に4期連続の増収増益・過去最高益を見込む

| (単位:百万円) | 2016年6月期 | | 2017年6月期 | | |
|----------|----------|--------|----------|--------|---------------|
| | | 構成比 | | 構成比 | 前期比 |
| 売上高 | 2,120 | 100.0% | 2,406 | 100.0% | 113.5% |
| 営業利益 | 267 | 12.6% | 351 | 14.6% | 131.5% |
| 経常利益 | 247 | 11.7% | 317 | 13.2% | 128.3% |
| 当期純利益 | 164 | 7.7% | 203 | 8.4% | 123.8% |

再生樹脂製造販売事業

- ✓ 再生樹脂製造販売事業は原料調達及び樹脂販売数量については安定的な成長を見込む
- ✓ 新規事業の再生ナイロン樹脂製造事業は18年6月期以降に収益化を見込む
(今期は設備投資のみ。償却開始は来期以降)

産業廃棄物処理事業

- ✓ 産廃処理事業はマンション等のリフォーム・リノベーション案件の受注増による成長を見込む
- ✓ インバウンド関連・オリンピック関連の商業施設の改修工事などの大型案件については織り込まず

前提条件

1. 2016年6月期決算概要

Page:2-7

2. 会社概要

Page:8-11

3. 再生樹脂製造販売事業

Page:12-18

4. 産業廃棄物処理事業

Page:19-21

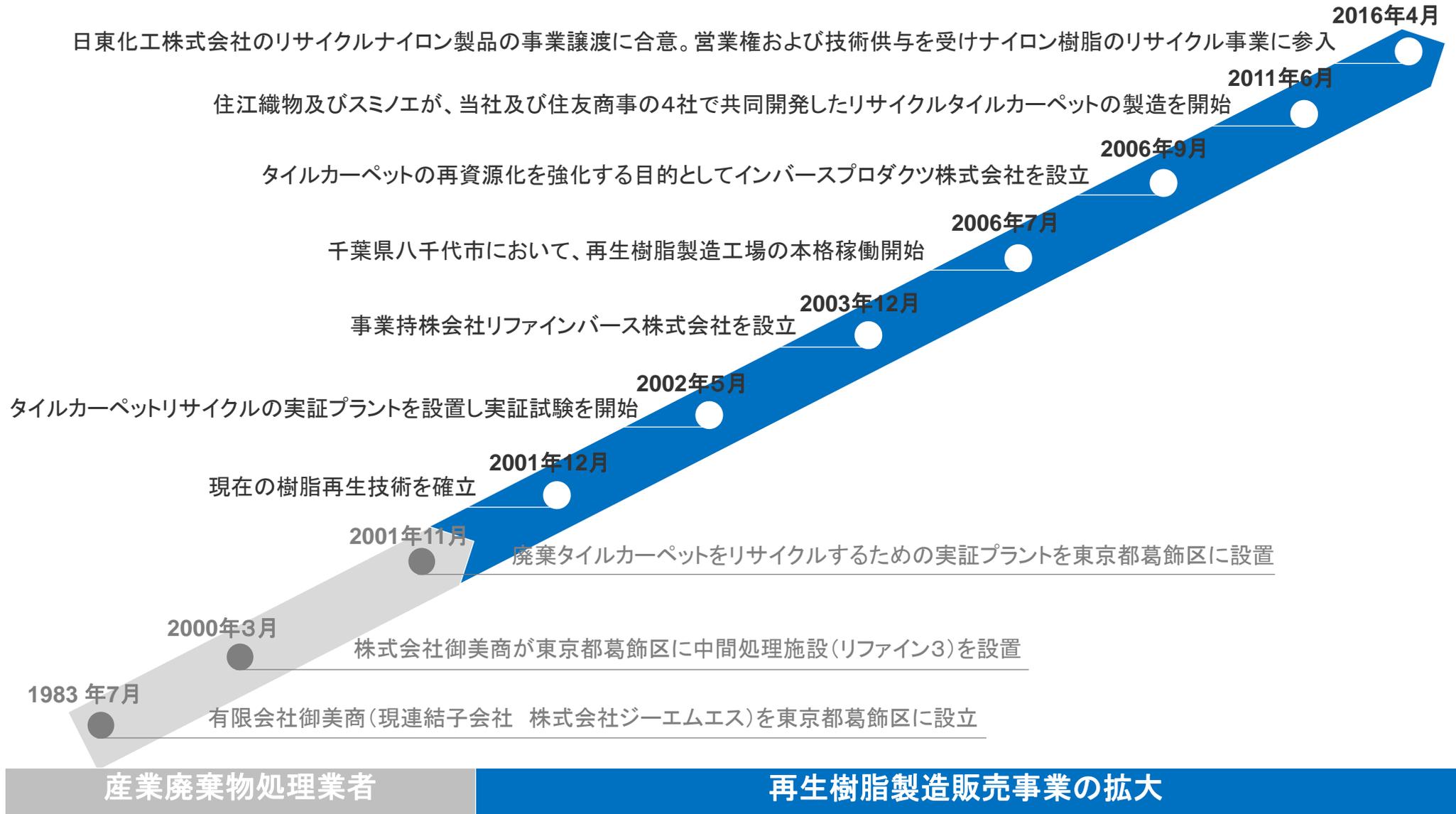
5. 今後の成長戦略

Page:22-26

- 会社名** :リファインバース株式会社
- 資本金** :370,380千円（2016年7月28日現在）
- 設立** :2003年12月
- 所在地** :(本社)東京都中央区日本橋人形町3-10-1
(千葉工場) 千葉県八千代市大和田新田672-4
- 取締役** :
- 越智晶 代表取締役社長
 - 堀内賢一 取締役 最高技術責任者兼製造部長
 - 大谷淳 取締役 経営管理部長
 - 加志村竜彦 取締役 事業開発部長
 - 松村順也 取締役 研究開発部長
 - 瀧澤陵 取締役 (株)ジーエムエス代表取締役社長)
 - 鮫島卓 社外取締役
 - 山中尚哉 社外取締役
- 従業員** :118名(グループ全体)
- グループ企業** :株式会社ジーエムエス
インバースプロダクツ株式会社

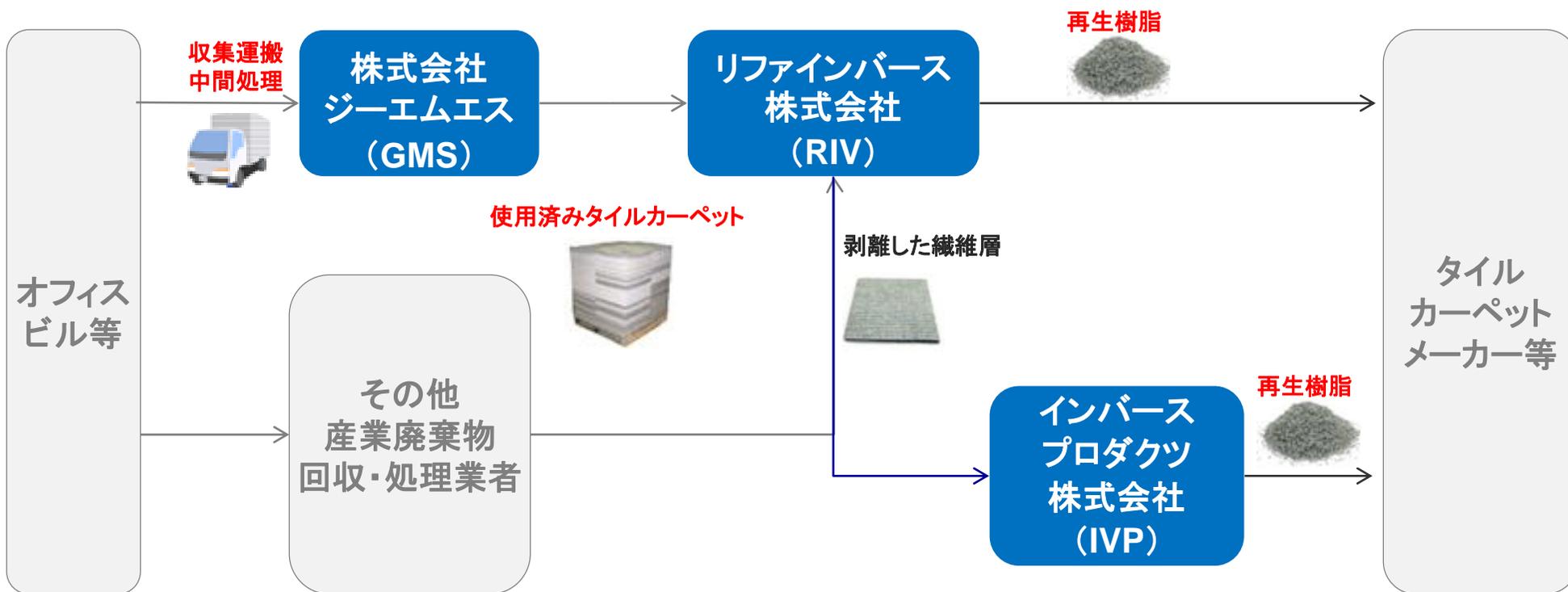
リファインバースグループ沿革

当社グループは建築系廃棄物処理の収集運搬業として設立された株式会社ジーエムエスが母体となり事業を開始。再生樹脂製造事業が確立され廃棄物処理から樹脂製造までの一貫体制となったことで高い成長性を実現。



当社グループの主な商流

当社グループでは再生樹脂製造事業をリファインバース社及びインバースプロダクツ社が、産業廃棄物処理事業をジーエムエス社が担当



当社が初めて実現した使用済みタイルカーペットリサイクル事業とのシナジーにより、タイルカーペット以外の建築系廃棄物処理全般の処理受注も拡大。再生樹脂事業と産廃処理事業の両輪による成長を実現しています。

1. 2016年6月期決算概要

Page:2-7

2. 会社概要

Page:8-11

3. 再生樹脂製造販売事業

Page:12-18

4. 産業廃棄物処理事業

Page:19-21

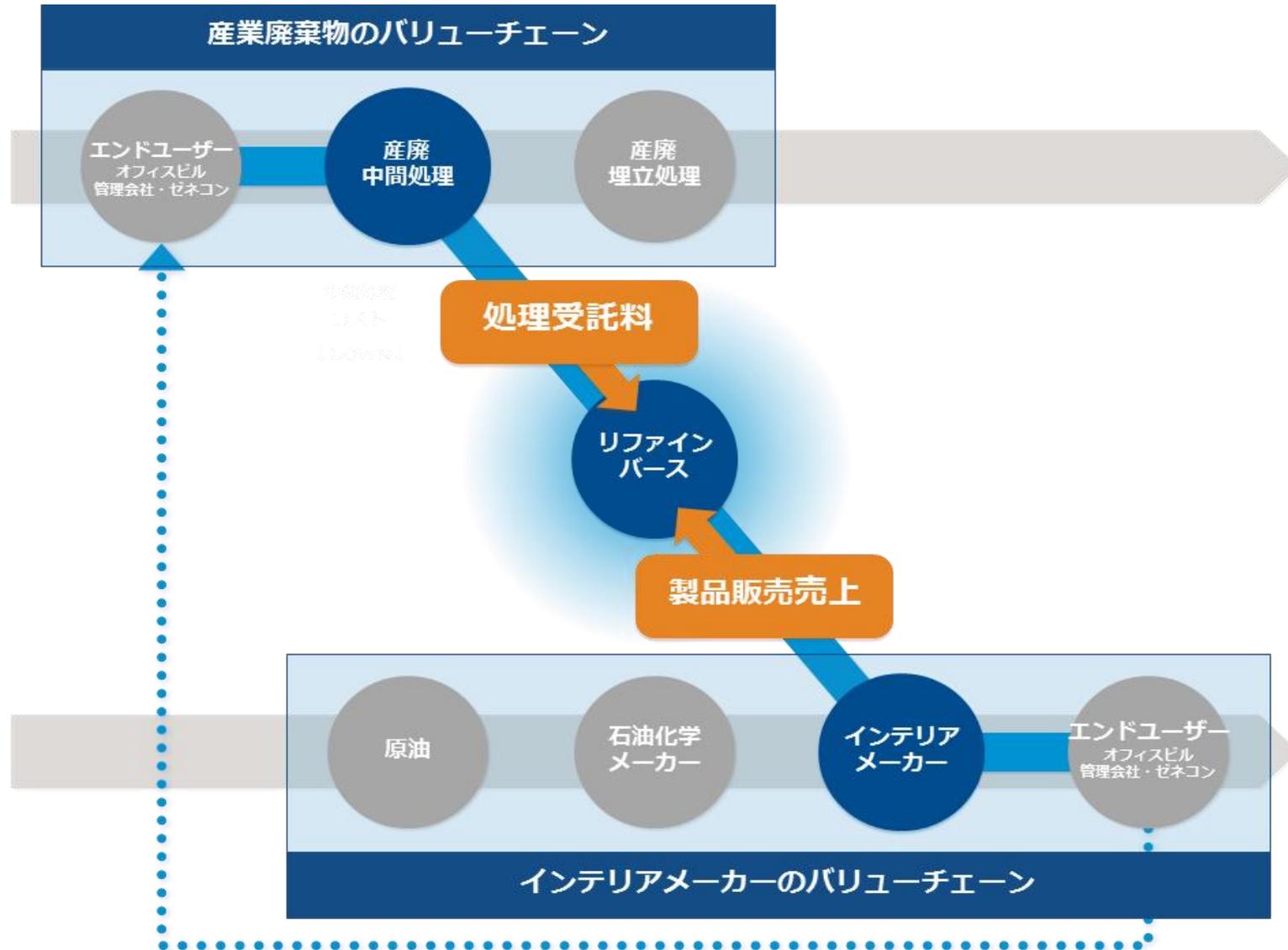
5. 今後の成長戦略

Page:22-26

- ① “入口/出口”で売上が計上される収益性の高いダブルインカムモデル
- ② 独自開発技術による高品質・低コストな製造プロセスが実現した価格優位性
- ③ 参入障壁の高いニッチ市場での独占的ポジションによる強固なビジネスモデル

再生樹脂事業のビジネスモデル

全く異なる産業廃棄物処理とインテリアメーカーのバリューチェーンを繋ぐ「クロスバリューチェーン」により
 廃棄物処理受託による売上と樹脂製造販売による売上の“ダブルインカム”の収益性の高いビジネスモデルを構築

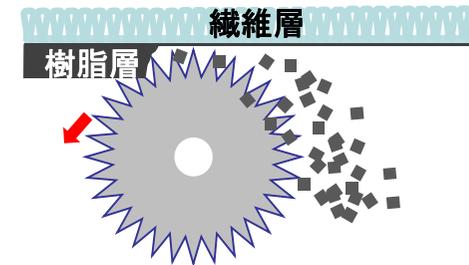


独自開発技術による再資源化処理

再生樹脂に求められる構成素材ごとの“分離”と“粉体化”を独自開発の精密加工技術を用いてワンプロセスで実現。
当該技術により高品質かつ低コストな再生樹脂の製造が可能となった。



《カーペット再資源化処理技術イメージ》



- ✓ 再資源化処理に必要な刃の形状や角度などの独自の設計
- ✓ 樹脂層と繊維層の境界面での精緻な分離加工技術
- ✓ 熱の発生を抑えるための回転スピードや刃の組合せ方法などの特殊ノウハウ
- ✓ 低コスト化を実現するための高速処理技術

多数の要素技術が組み合わさった高度で模倣困難な技術

高度な工作機械技術をベースに廃棄物の再資源化に応用・発展化させたことが新たなビジネスを生み出す核となっています。
現在は化学的技術を用いた新しい技術開発に取り組んでおり、事業領域の広がりや高付加価値化を目指しています。

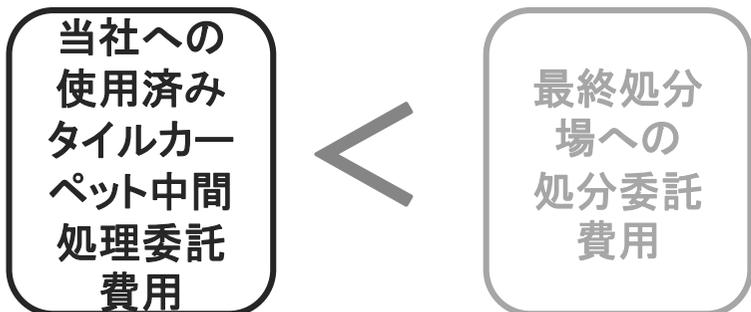
独自技術により実現された価格優位性

当社の再生樹脂事業は廃棄物処理受託及び樹脂製造販売の両面においてこれまでの商流を一変させるほどインパクトのある価格優位性のあるビジネスモデルを確立

使用済みタイルカーペット回収面での優位性

背景:最終処分場の処理容量の逼迫

産業廃棄物回収・処理事業者にとって

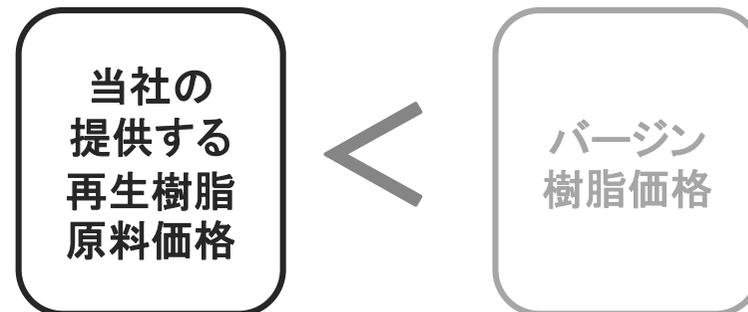


当社の使用済みタイルカーペット安定回収に寄与

再生樹脂販売価格面での優位性

背景:バージン樹脂由来製品の価格

タイルカーペット製造メーカーにとって

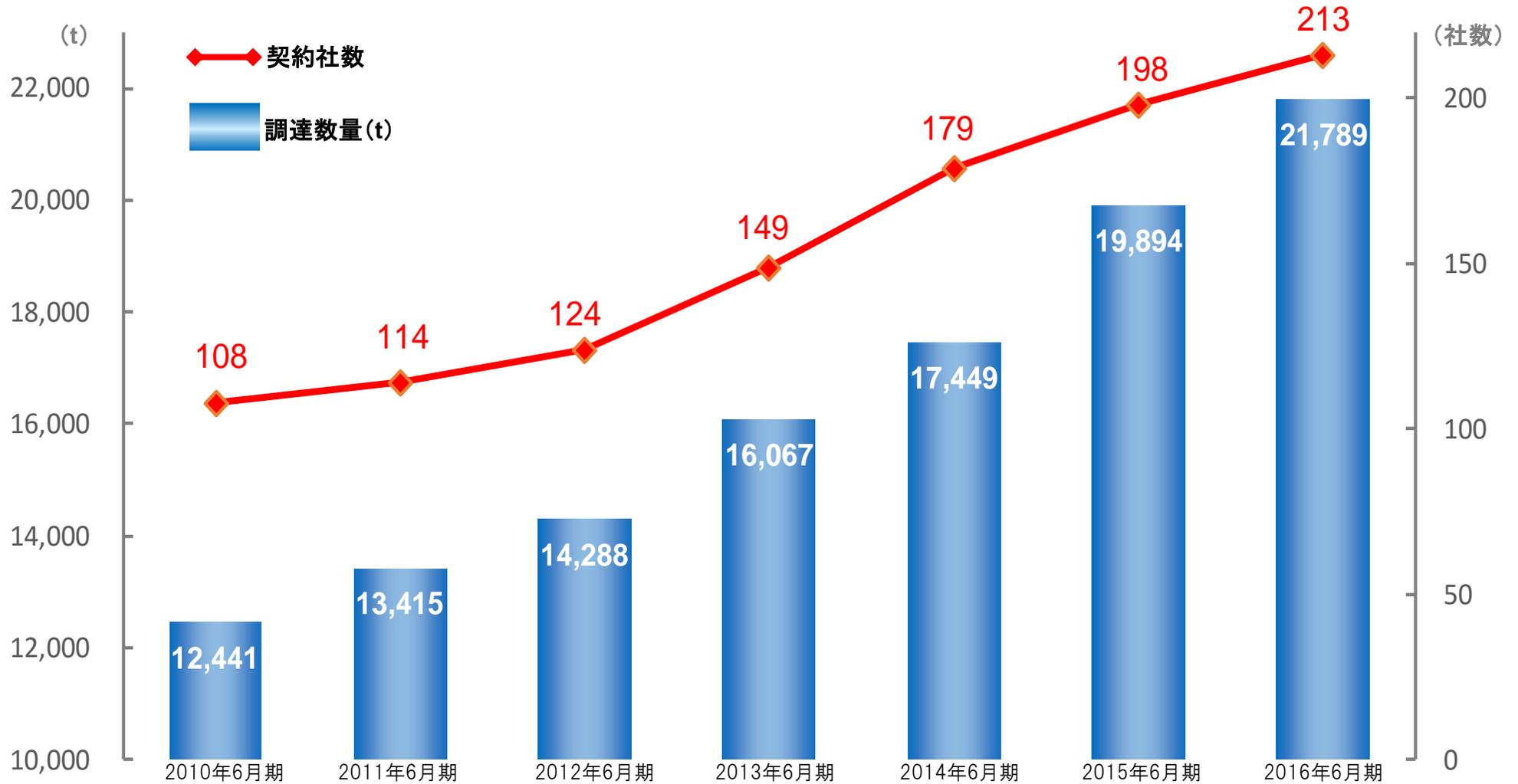


当社製品の需要向上に寄与

タイルカーペット調達量推移

タイルカーペットの調達量は契約社数の増加に比例して順調に増加

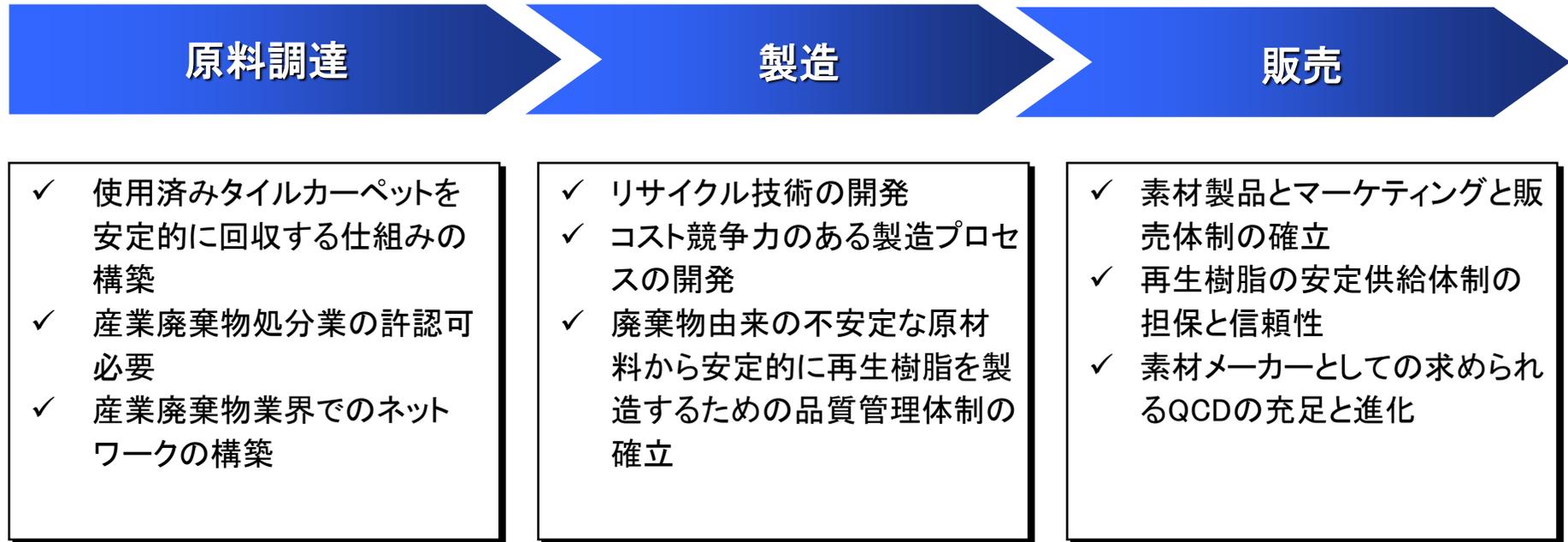
《タイルカーペット調達数量及び契約社数推移》



※調達数量は市場回収と工場廃材の合計値

高い参入障壁

本ビジネスは原料調達・製造・販売のバリューチェーンを三位一体ですべて構築することが必須であり、いずれかの機能が不足すれば事業化は非常に困難



素材メーカー等が参入するには原料となる廃棄物の安定調達体制の構築に高いハードルがあり、また廃棄物業界が参入するには技術開発や製造、素材マーケティングに高いハードルがあるため新規参入が困難となっています。

1. 2016年6月期決算概要

Page:2-7

2. 会社概要

Page:8-11

3. 再生樹脂製造販売事業

Page:12-18

4. 産業廃棄物処理事業

Page:19-21

5. 今後の成長戦略

Page:22-26

① タイルカーペットリサイクルをフックとした建築系廃棄物全般処理の受託

② 小規模解体工事から収集運搬・中間処理の一貫体制による利便性・対応力の強さ

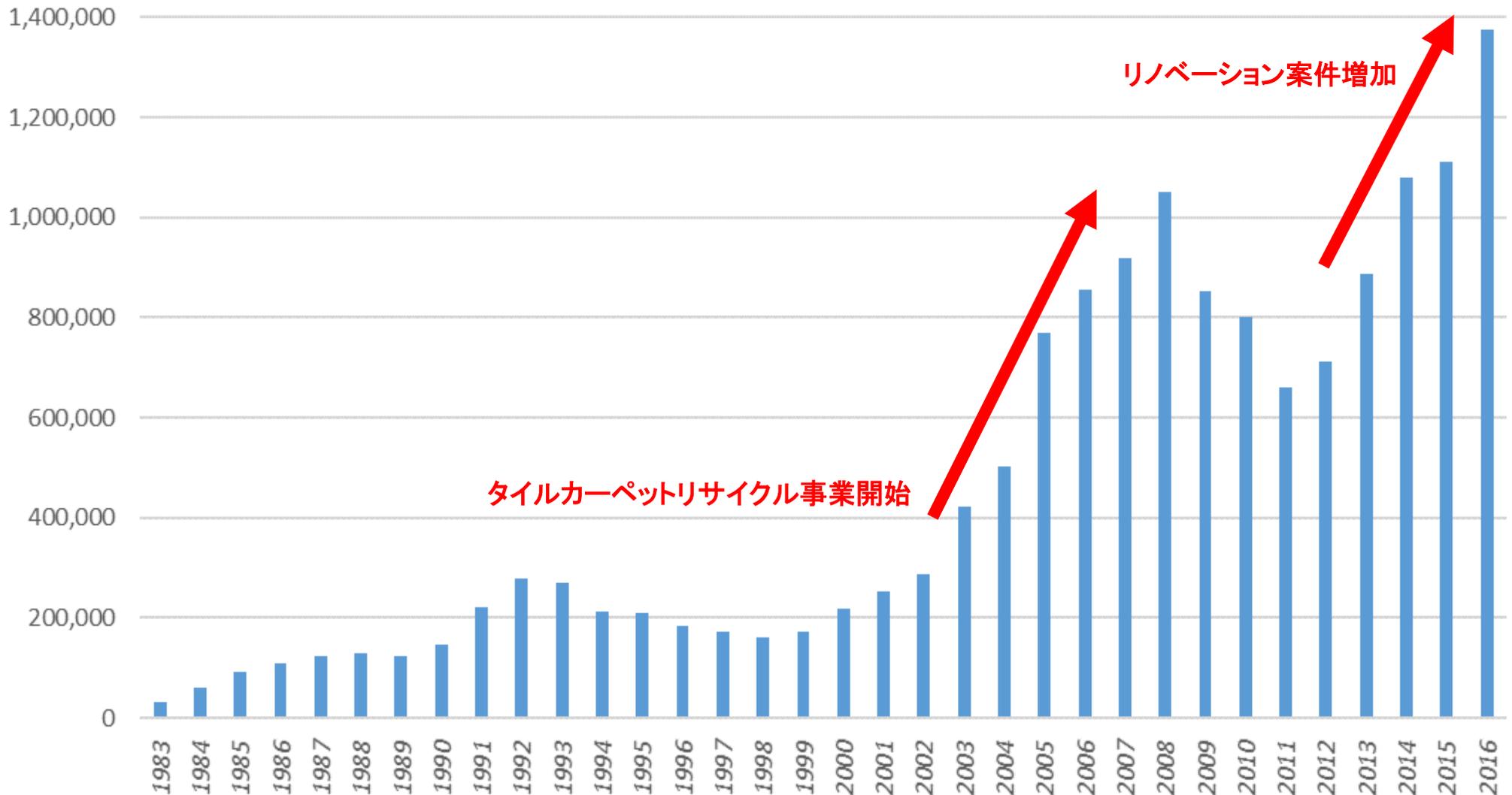
③ 安定的なキャッシュフローを生み出しながら着実な成長が可能なビジネス

産業廃棄物処理事業の強み

リファインバース社のタイルカーペットリサイクル事業がフックとなりカーペットに付随する建築系廃棄物全般を処理受託することで業績が拡大。近年は住宅系リフォーム・リノベーション案件の増加も新たな成長要因となり安定的なキャッシュフローの創出に貢献。

(単位:千円)

《株式会社ジーエムエス売上高推移》



1. 2016年6月期決算概要

Page:2-7

2. 会社概要

Page:8-11

3. 再生樹脂製造販売事業

Page:12-18

4. 産業廃棄物処理事業

Page:19-21

5. 今後の成長戦略

Page:22-26

① ナイロンリサイクル事業への参入

② タイルカーペットリサイクル事業の拠点展開による規模拡大

③ 新規リサイクル事業の開発

ナイロンリサイクル事業への参入

タイルカーペットの表面繊維層に使用されているナイロン繊維はこれまでは技術的課題により処分費を払って処理委託。数年前から研究開発を続けてきた新しい化学的プロセスの技術開発が成功し、付加価値の高いナイロン樹脂の量産化を目指す。

《ナイロンリサイクルの課題》

- ✓ タイルカーペットの重量比80%以上を構成する裏面塩ビ層を再資源化した後に副産物としてナイロン繊維層がワタ状で産出
- ✓ 産出されたナイロンにはナイロン以外の不純物が30%以上混入しておりナイロン樹脂としては市場価値のない状態
- ✓ 機械的技術による分離には技術的限界により再資源化困難

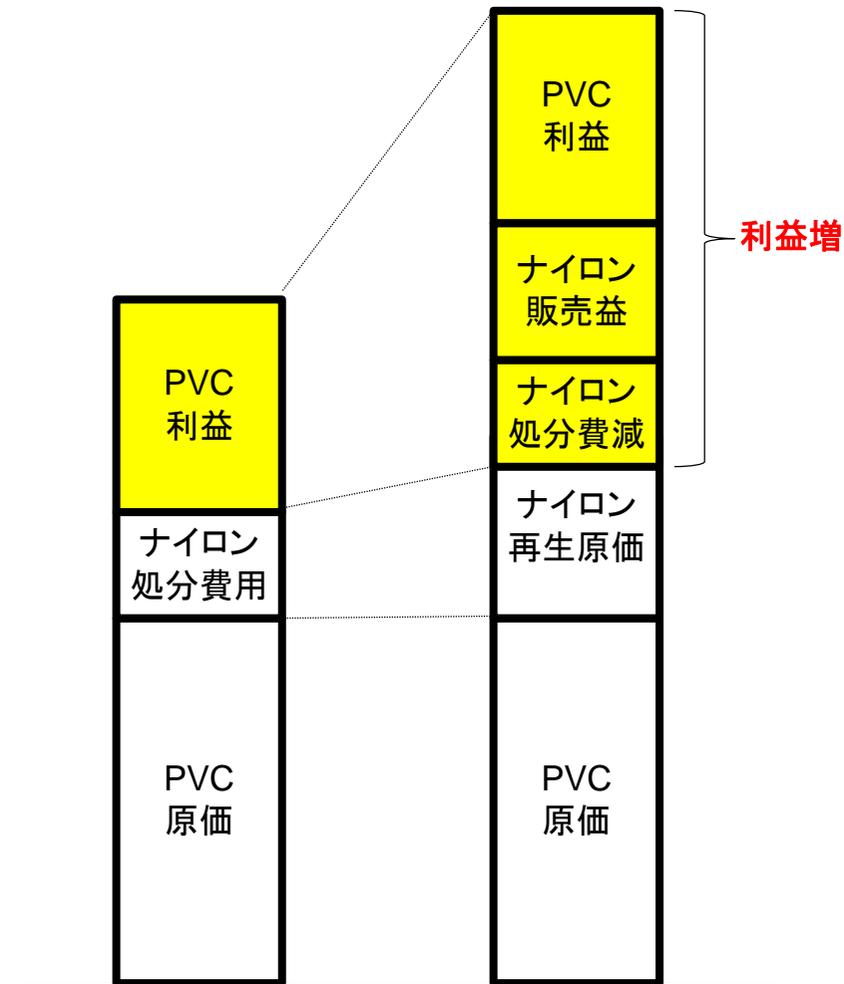
《ナイロンリサイクルによる収益構造の変化イメージ》

課題解決に向けた取り組み状況

- 技術開発**
- ✓ 新たに技術開発した化学粉碎方式により高純度ナイロンを製造
 - ✓ 有機溶剤を用いてナイロン樹脂のみを選択的に溶解させ、不溶分を分離した後、分離溶解液からの析出によりナイロン粉体の抽出を行う
 - ✓ 基本的なプロセス開発は終了

- 製造**
- ✓ 千葉県富津市に新たな工場用地を確保し量産工場の立ち上げ準備中

- 販売**
- ✓ 日東化工(株)よりリサイクルナイロン事業を継承し、再生ナイロン樹脂販売のための顧客基盤を整備



タイルカーペットリサイクル事業の拡大

タイルカーペットはオフィス需要を中心に全世界で使用されている建築資材であり、莫大な年間使用量と既設ストックが存在。使用済みタイルカーペットのリサイクル事業は世界的にも実施例が少なくグローバルな事業展開による成長を目指す。



出所：インテリアデータバンク・FloorCoveringNews等より当社作成

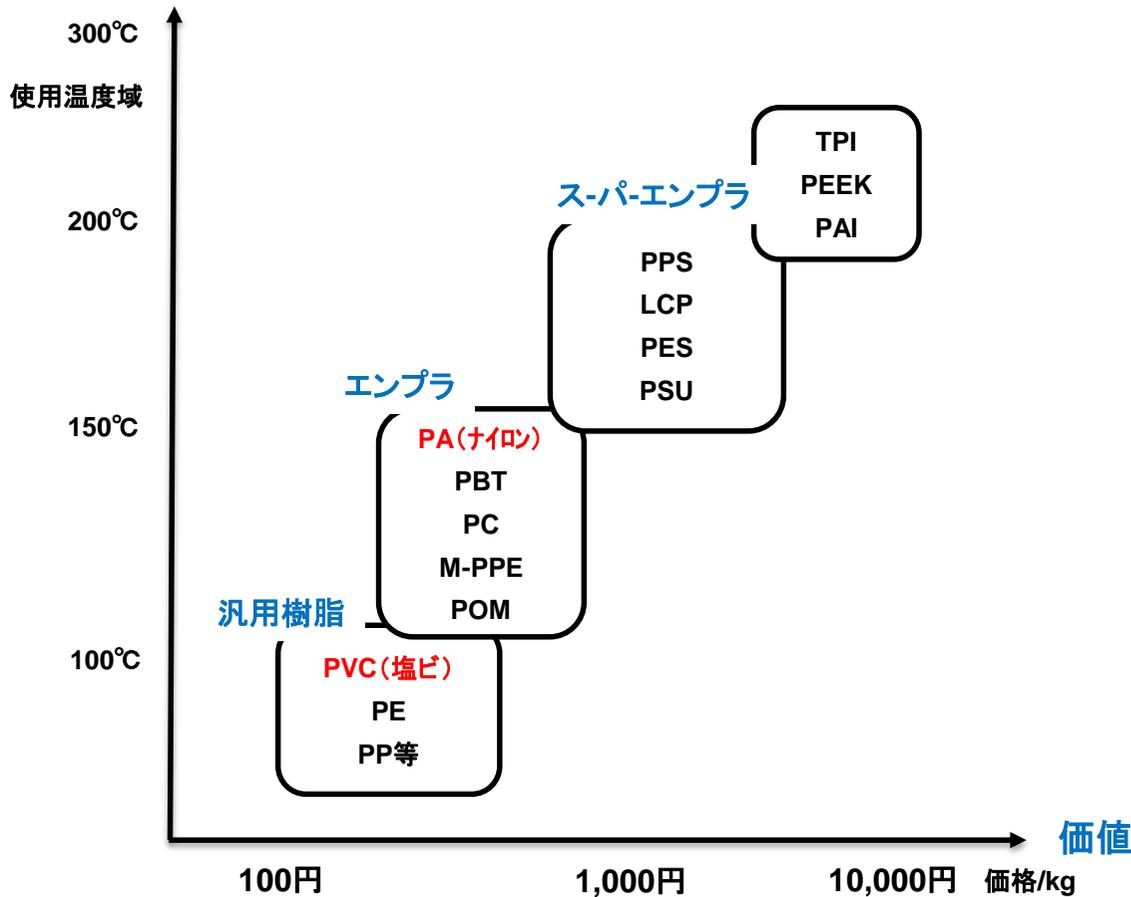
新規リサイクル事業の開発

《市場動向とリサイクル技術への期待》

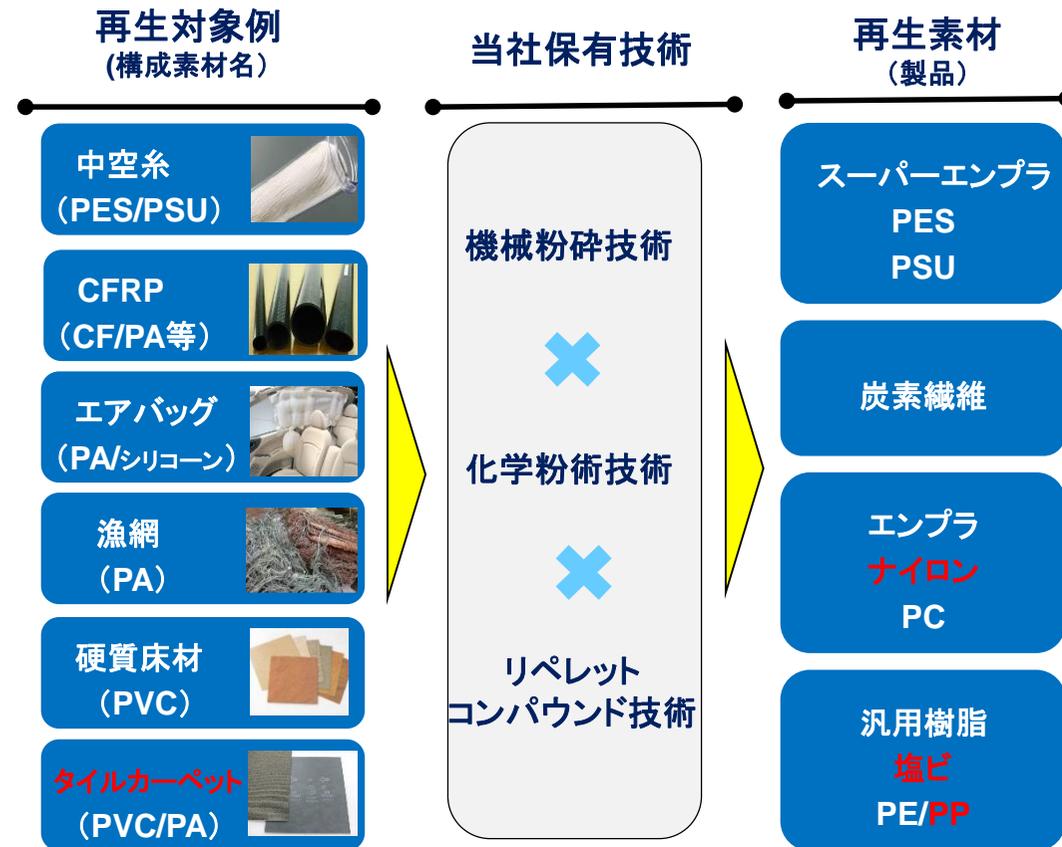
- ✓ 先端技術分野における金属部品代替による軽量化や省資源化の重要性が高まっており、代替材料としてのプラスチック材料の高機能化、複合化が今後も進展していくと見込まれています。
- ✓ 一方で高機能化、複合化により、より高次の再生技術が求められています。

機械粉碎×化学粉碎×リペレット/コンパウンド技術=新たなリサイクル技術開発による新規事業の創出

機能性



新規リサイクル事業イメージ



※赤字は当社で事業化/販売している原料/製品

将来見通しに関する注意事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。